

ピクリン酸アンモニウム

別名:

$C_6H_2(ONH_4)(NO_2)_3(2,4,6-)$

劇物:(ピクリン酸塩類。ただし、爆発薬を除く。)

(性状)輝黄色の安定形と輝赤色の準安定形があり、急熱や衝撃により爆発することがある。

融点254。水にやや溶けにくい(20で水100mlに1.02g溶ける。)

措 置

漏 え い 時

飛散した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立入りを禁止する。

作業の際には保護具を着用し、風下で作業をしない。

飛散したものは空容器にできるだけ回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。

なお、回収の際は飛散したものが乾燥しないよう、適量の水を散布して行き、また、回収物の保管、輸送に際しても十分に水分を含んだ状態を保つようにする。

用具及び容器は金属製のものを使用してはならない。

出 火 時

(周辺火災の場合)

速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器及び周囲に散水して冷却する。

容器が火炎に包まれた場合は爆発のおそれがあるので近寄らない。

(着火した場合)

多量の水を用いて消火する。

消火作業の際には必ず保護具を着用する。

(消火剤)

水、乾燥砂

暴 露・接 触 時

急性中毒と刺激性

(吸入した場合)

鼻、のどの粘膜を刺激し、はなはだしい場合は意識不明となり、呼吸困難を起こす。

(皮膚に触れた場合)

皮膚が黄色に染まり、皮膚からも吸収され、頭痛、めまい、悪心、嘔吐、皮膚疹を生じる。

(眼に入った場合)

粘膜等を刺激し、角膜障害などを生じる。

医師の処置を受けるまでの救急方法

(吸入した場合)

直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移す。

呼吸困難又は呼吸が停止しているときは、直ちに人工呼吸を行う。鼻やのどに刺激があるときは鼻をかみ、うがいをさせる。

(皮膚に触れた場合)

直ちに汚染された衣服やくつ等を脱がせる。直ちに付着又は接触部を石けん水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流す。

(眼に入った場合)

直ちに多量の水で15分間以上洗い流す。

注 意 事 項

ガソリン、アルコール類など燃焼しやすい物質と接触させることを避け、火気に対し安全で隔離された場所に貯蔵する。

保 護 具

保護眼鏡、保護手袋、保護長ぐつ、保護衣、防じんマスク

(火災時:空気呼吸器)